

## 銘柄分析レポート：NIMBY（ニンビー）企業

### 1 はじめに

企業の持っている「経済的な堀」の解説が充実している『千年投資の公理』より引用します。

長期間の優位性を生み出す無形資産の最後のひとつは行政の認可である。これがあるとライバル企業は市場に参入するのが非常に難しいか、もしくは不可能になる。

この分野で筆者のお気に入りには、ゴミ処理業者や砂利メーカーなどの、いわゆるNIMBY企業だ。自分の近所にゴミ廃棄場や石切り場があってうれしい人はいないため、すでに存在する廃棄場や石切り場には非常に高い価値がある。そして、新たに認可を得ることは、不可能に近い。

NIMBY（ニンビー）とは、私たち日本人にとって聞きなれない言葉ですが、ウィキペディアによれば意味は次のとおりです。

英語：“Not In My Back Yard”（我が家の裏には御免）の略語で、「施設の必要性は認めるが、自らの居住地域には建てないでくれ」と主張する住民たちや、その態度を指す言葉である。日本語では、これらの施設について「忌避施設」「迷惑施設」「嫌悪施設」などと呼称される。

今回の銘柄分析レポートでは、ニンビー企業を取り上げます。



『千年投資の公理』でも紹介されていた、米国最大のゴミ処理業者ウエスト・マネジメント（WM）のリターンはS & P 5 0 0 指数を大幅に上回っています。